

# 『逃れの町』 米村 英二 師

「あなたの神、主が、あなたに与えようとしておられる地の国々を、あなたの神、主が断ち滅ぼし、あなたがそれらを占領し、それらの町々や家々に住むようになったときに、あなたの神、主があなたに与えて所有させようとしておられるその地に、三つの町を取り分けなければならない。あなたは距離を測定し、あなたの神、主があなたに受け継がせる地域を三つに区分しなければならない。殺人者はだれでも、そこにのがれることができる。殺人者がそこにのがれて生きることができる場合は次のとおり。知らずに隣人を殺し、以前からその人を憎んでいなかった場合である。」  
(申命記 19:1 ~4)

「しかし、もし人が自分の隣人を憎み、待ち伏せして襲いかかり、彼を打って、死なせ、これらの町の一つにのがれるようなことがあれば、彼の町の長老たちは、人をやって彼をそこから引き出し、血の復讐をする者の手に渡さなければならない。彼は死ななければならない。」 (申命記 19:11 ~12)

「あなたの神、主が、あなたの先祖たちに誓われたとおり、あなたの領土を広げ、先祖たちに与えると約束された地を、ことごとくあなたに与えられたなら、……そのとき、この三つの町に、さらに三つの町を追加しなさい。」  
(申命記 19:8 ~10)



米村英二師

熊本県大津市  
大津キリスト教会牧師・学院顧問

上記の御言葉は、「逃れの町」についての規定です。

ヨルダン川の西にある約束の地に入って、そこに住むようになったなら、三つの町を、「逃れの町」として取り分けなければならないという命令です。ヨルダン川の東には、ルベン、ガド、マナセの半部族が住んでいたもので、すでにそこには三つの「逃れの町」が制定されていました。したがって今度はヨルダン川の西に三つ。合計六つの町が「逃れの町」として取り分けられました。後に西側の領土が広げられたならば、さらに三つの「逃れの町」を追加し、合計九つの「逃れの町」を設けよと命令されました。

## 「逃れの町」とは？

「逃れの町」とは何でしょうか？それは、意図的ではなく、誤って人を殺した場合、殺された人の家族による復讐から彼が逃れるために設けられた町のことです。

ヨシュア記には、誤って人を殺した人がそこへ逃げ込んだら、その町の長老はその訳を聞き、彼を保護し、復讐者に渡してはならないと書かれています。四国よりわずかに広い程度の国に合計九つの「逃れの町」があり、それらは国のどこからでも数時間で逃げ込めるような場所に分散されていました。しかも距離が測定され、道案内があり、どれぐらいでそこに達することができるかの指標が立てられていたというのです。誤って人を殺してしまった人が復讐者から逃げるとき、分かれ道に来ると、「逃れの町」は、右へ三キロと書いてあるなら、道は明瞭であり、迷わなくて済みます。至る所にそういうサインが立っている親切な国、実にユニークな国です。

日本の古代社会に、そういうものがあつたでしょうか？  
ともかくその逃れの町に逃げ込みさえすれば、人の憎しみ、恨みから救われ、追っ手から救われるのです。

## 現代の日本社会に「逃れの町」はあるか？

現代の日本社会は、この旧約聖書に描かれた社会ほどに親切でしょうか？ 私の息子がまだ学生の頃、ある店の駐車場の七階で、バックで急発進し後ろの車止めを破損させたことがあります。修理代は、数万円はかかるかもしれないと言われ、覚悟したものの、実際に請求書が来て驚きました。何と65万円という法外な額だったからです。その後、建設会社に働く私の弟に相談したり、弁護士に相談したり、親切な知り合いが交渉してくれたりして、ようやく最終の請求額は25万円になったものの、この出来事を通して、社会は、必ずしも寛大ではなく、誤って壊したものでも、その請求は、しばしば予想をはるかに超えることが多いと知ったのです。

教会の中で、起こった出来事でさえ、非常に厳しい現実を突きつけられることがあります。ある教会の牧師が話してくれたことですが、教会でバーベキューをしたとき、ある教会員が友人を招きました。バーベキューの火がなかなかつかないので、その人が着火剤を使った、そのとき、それが突然爆発して、彼の友人が顔にやけどをしてしまいました。その友人は女性だったのです。すぐに病院に運ばれ、入院し、治療にあたりましたが、わずかながら、顔に傷が残ってしまい、彼女は友人の加害者に100万円の慰謝料を